

舌切雀天狗喰ひ

この邊で始めて人形芝居を見る。明日は又附添き一日中離れられないやうな子でも、この一三時、さみしさも、頼りなさも忘れてしまつて、自分一人になつて見物する。そこを覗ふのであつて、十分堪能させるには、年長組一組、年少組一組位の少人数が、一室で靜かに見る程度。

第三週

猫のお見舞

病氣になつた猫を、大きい犬と小さい犬が見舞に行くといふ、まことに心やさしい話である。大きい犬の動作のすべてが大きく、小さい犬はすべて小さな動作で、聞いてゐる幼児にはつきり會得出来る程の大小の差をつけるのが

観
察

第一週

幼稚園内各室、幼稚園の庭、これ等はこの時のこの子供

いゝ。

天長節

前日に、明何日は天長節であること、或は靖國神社のお祭りであることを知らせる。何の日で休むかを知らせ、まだ委しい説明はしない。聞かせるばかりではなく、「天長節」、「靖國神社のお祭り」を各自に發音させる。

第四週

牝鶏と猫

牝鶏がわがひよこを強く愛する方を主とし、特に猫を悪者あつかひせぬやうに。但し猫が蛇の卵でびつくりする驚きをうまくあらはしたい。

達が家庭以外に始めて生活する場所なのである。生活訓練の方で皆説かれてゐる事である故観察として改めて言ふ迄

もないと思ふ。生活する場所を知るのであるが、知る言ふのも、見て廻る、生活の順序をみて見て廻る言ふ方がいゝかも知れない。子供にはどんなに何もかもが新しく大きく、多くであらう。而し、兎に角子供達に新しい楽しくなるべき生活の場所を見て廻らう。靴箱はあけて見やう。帽子掛も帽子をまつたりかけたりして見やう。がまづ自分達の組のお室を知らう。そうしたら遊戯室に行き、大きい組のお友達の遊戯をみせてもらはう。それより前に、手洗所に連れて行つて見やう。始は園内はこの位にして庭に出る。まづ一廻りゆつくり歩く。ぶらんこが空いてる、すべり臺がよく滑りさうだ、はしごの様な、公園にあつたつけ、ジャングルジウム。さあみんな好きなもので遊びなさい。花壇の花、お山の木、(大銀杏は何よりも早くみつけたが)は明日又みんなで見るとしやう。大きい組のお室も、先生方のお室も、附添の待つてゐる室も(これはごこより判つてゐるかも知れないが)小使さんの室も、又明日みやう。

第二週

幼稚園の近處

幼稚園といふ場所に少し慣れ、獨りで必要な場所がわかる様になるのはさうしても四五日はかゝる。そうした頃幼稚園の近所を改めて眺める。建物、木等、我々の幼稚園舎を客觀的に眺めるのである。お隣近所に何があるかを知るのである。

つくしんぼ

「つくしんぼ」を言ひ慣れてゐるあれは御承知の通り木賊料植物「すぎな」の實葉、胞子莖である。

春のいづきを割合に早く受けて土の下からむつくり起き出す様な、「つくしんぼ」は名から言つても、形から言つても童話の世界のものである。

「つくしんぼ」の出さうな土地さいふも大體わかる。土手である。あんまり肥沃そうでもないみどり色のまばらな土手である。榮養莖である「すぎな」があれば大てい春早くなら胞子莖の「つくし」もあるわけである。麗らかな日にご一緒にさがしつこ、つみつこをし度い。始めは一つ二つごもご數へてゐたのに手にもぼけつごにも一ぱいになつてしまつて、小さいハンカチのふちからもニョキ／＼出る程につ

み度い。つむ時はつむ事に一ぱいである。それを持つてお部屋へ歸つてから、又はその歸り道でが觀察の時である。若しこぎも一一緒につむ機會も場所もないにしても春の中間度はつくしんぼを持つて幼稚園に行き度い、月曜日の朝でも日曜日のこぎをつくしんぼを中心に話し合ひ度い。

六角形の胞子囊を持つた子囊穗ミ俗にハカマこいふさや(これは葉の變形である)を持つた漿質の莖を注意する。ふるつて紙に受けるミ落ちるのは胞子であるがこれを特に説明してきかせる必要もない。若し「これはなに」ミきく子ぎもがあればつくしんぼのお母さんはすぎなで、花が咲かない、つくしんぼはお花のかはりで、この粉は種子のかはりであるこぎは話してやる。けれどつくしんぼで觀察させ度い所はあの形ミ色ミ香である。若いもの、のびたもの、開いたものの變化の愛らしさである。そして話し合つた後、つくしんぼに因んだ童話をするも面白いし自由畫ミしてもかミせ度いものである。

第三週

鯉職

幼稚園に入つて最初に經驗する年中行事は五月節供であらう。大分こぎも達も幼稚園になれた頃である。遠くからはみても、座敷がざりミちがつて近くでみる機會は少いこぎもも多い鯉職である。朝こぎも達ミ一しよに鯉職を立てたい。そして清々しい若葉の風に一ぱいにふくらんだ所を、お庭へ椅子をもち出してかミせ度い。ふき流しの色を呼び、色の數を數へよう。まミこひミこひミの違ひを注意しよう。こうした中にこぎもの口からは鯉職のうたがうたはれるのである。

たねまき

春のたねまきは彼岸前後ミいふ。がこぎも達が少しは、慣れなければ出来ない。この頃でもまだ積極的に遊びの中に入れないこぎも多いであらう。従つてまく場所も一しよにこしらへる事は出来ない。土は花壇であつても鉢であつても、箱であつてもよい、充分たがやして施肥もし、蒔くばかりに用意して置く。

蒔く種の種類は何でもよいわけであるが、子供に成長のわかり易いもの、花の親しみ易いもの、名の覚え易いもの、

勿論毒でないもの(花も、葉も、莖も、實も)を條件とする。朝顔、松葉牡丹、サルビヤ、コスモス等が無難である。豆も面白くよい。菜の花(小松菜でもよい)もきれいでいいものである。四種も五種も一度に蒔かずに二種かせいぜい三種位が適當で、蒔く前にまづ種子を蒔かすに二種かせいぜい三色等。そして銘々の幼児にその各々を蒔かせる。蒔き方はあらかじめ種子の種類に應じて土のかけ具合を話す。そして蒔いたら名ふだを立てる。

蒔いてからは時々水をやりに子供達と一しよに蒔いた所を訪ねる。自分達の蒔いた種子が芽を出し日毎に伸びるうれしさを子供達と共に味ふのである。

第四週

チューリップ

春の花の中、子供の印象に最も鮮やかにうつるらしい花である。和名は「うつこんこう(鬱金香)」百合科の小アジア原産の植物である。球根植物で六枚の花被をもち地下莖は圓椎状の鱗莖である。前秋に鉢植ゑして置くこの頃その苦心の花が開くわけである。散り易い花であるが長くもた

せる爲には成るべく日蔭に置くことである。晴天の時に開く花であるから。赤、黄、しほり等々の花もぼっくりさこごの感覚に恰らマツチするものがある様に思はれる。

それさなく保育室の花瓶に生けて置く、又鉢を置いて置く、「おはよう」を入つて來るさこごの注意を引く花である。まづ子供達と一緒に觀賞しやう。花被の色、形、香、數、葉の形を注意する。そうしたら自由畫に、塗畫に、缺仕事に引入れる。前以てそのつもりで投入れたチューリップであり、色模造紙も糊も、色鉛筆もクレヨンもその爲に用意してあるのだけれび、それさなく。

武者人形

遊戯室に飾られた幼稚園のみんなの武者人形をみんな一しよにみにゆく。家にあるものと同じのがあつたり、珍しいものがあつたり、附添はなれない子供には全くよい引はなし策のやうなものであらう、話し合はない子供さも話し合ふ機會が得られる。